

生徒の英語「読み取り」指導にひと工夫を 「ストーリー・スライド」の活用

滋賀県東近江市立蒲生西小学校 英語専科指導教員 | 中村 隆秀



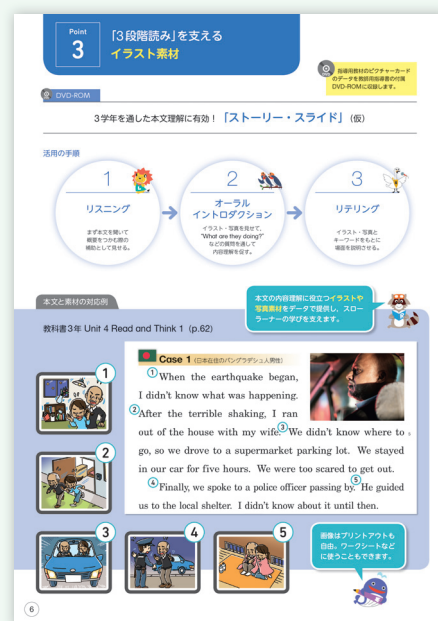
今から半世紀以上前の昭和30年代後半、幼稚園児だった私は、紙芝居を心待ちにしていました。もちろん当時の幼稚園には、パソコンも電子黒板もありませんでしたから、先生方は紙に描かれた絵を手際よく入れ替えながら、園児を未知のお話の世界へ誘ってくださっていました。お話の内容をいかに園児の心と頭にすっと浸透させるか、話し方や絵の見せ方の研鑽も積まれていたのだと思います。

紙芝居や絵本の読み聞かせは、聴覚に訴える音声と視覚に訴えるイラスト・写真・図表等を絶妙なるタイミングで聞かせたり見せたりすることにより、内容理解に大きな効果があります。私もかつて中学校の教壇で、時にはテープレコーダーの音声を使わずに、自分があたかも紙芝居師かのように、Picture Cardsをさばきながら、オーラル・イントロダクションに工夫を凝らしていた時期がありました。英語教員たるや、授業においてはプロ級の紙芝居師やストーリーテラーのようにあらねばならぬと意気が揚がっていた頃の話です。

時代は令和に入り、国の英語教育改革も本格的に始まっています。教室にパソコンや電子黒板が整備されている環境では、Picture Cardsもさることながら、指導用のデジタル教材を駆使して、よりよい指導を目指し工夫や手立てを施すことができます。また、『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編』の96頁には、(2)内容の取扱いの一つとして、「**指導に当たり、視聴覚教材やその他の教育機器を有効活用することは欠かせない要素である。写真や映像などを見せることで、理解を促進し、現実感や臨場感を与え、学びの動機付けときっかけを与えることができる**」とあります。

このような状況の中、令和3年度の教科書には、新しい一歩として「ストーリー・スライド」が提供されます。教師用指導書の付属データとして、教科書で使っているイラストや写真に加えて、それらを補うものも多数入っています。また、カスタマイズ(先生のご指導に合わせて順番を変更したり、枚数を増減したりすること)もできますので、創造的な活用に向けて大きな期待が持てます。

これまでは、自身でイラストを描いたり、インターネットで使用可能な素材を検索し、取り込んで加工したりして、相当な時間と労力をかけて作成してきていたものです。もちろん、そういう作り方を否定しませんが、働き方改革に合わせて、すでに準備されているデータを使わない手はありません。各学校の実情や生徒の学びの実態に応じて、「ストーリー・スライド」の活用を検討していきたいものです。



▲令和3年度教科書 内容解説資料 指導書資料 p.6



ストーリー・スライドで英語がわかる!



滋賀県湖南市立甲西北中学校 教諭 山口 朋久



新学習指導要領では、小学校英語の教科化により、中学校で扱う単語や英文の分量が増えます。また、全国学力・学習状況調査や高校入試の出題傾向に変化が見られ、長文化すると同時に、自分の考えを表現することが求められるなど、読みの力も変わらざるを得ません。そのような状況に対応するため、新しい『NEW HORIZON』では、多種多様な題材とテキストタイプの英文を取り上げています。初めて読むときにイラストや写真などがあれば、どの生徒にとっても理解の助けとなります。また、生徒が自分の思いや考えを発信するときの手立てとして使うこともできるでしょう。教師用指導書付属のデータとして、本文に沿って紙芝居のように展開する「ストーリー・スライド」をご提供いたしますので、ご活用いただければ幸いです。

東京書籍

本社 〒114-8524 東京都北区堀船2-17-1
 支社・出張所 札幌 011-562-5721 仙台 022-297-2666 東京 03-5390-7467 金沢 076-222-7581 名古屋 052-939-2722
 大阪 06-6397-1350 広島 082-568-2577 福岡 092-771-1536 鹿児島 099-213-1770 那覇 098-834-8084
 ホームページ <https://www.tokyo-shoseki.co.jp> 教育資料データベース 東書Eネット <https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/>

令和2年6月発行 Copyright © 2020 by Tokyo Shoseki Co., Ltd., Tokyo All rights reserved. Printed in Japan

この資料は、令和3年度中学校教科書の内容解説資料として、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則っております。

東京書籍

3段階読みを助ける「ストーリー・スライド」

新しい教科書では、新学習指導要領で求められる読みの力に対応するために、次のような「3段階読み」を提案しています。ここでは、「ストーリー・スライド」を活用した「3段階読み」の指導例をご紹介します。

どの生徒も英文が「わかる!」、そして、思いや考えを自分自身の英語で伝えることが「できる!」という自信を持ってもらえることを願っています。

3段階読みの流れ

第1段階 本文の概要をつかむ

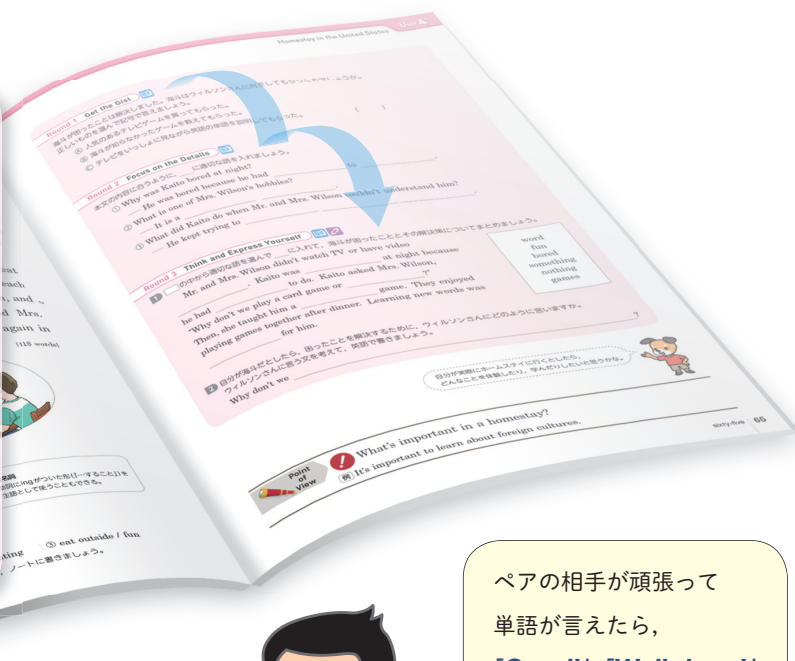
「ストーリー・スライド」を使った Oral Interaction で理解する。

第2段階 詳細をおさえる

英問英答などを行いながら、教科書の本文を繰り返し読む。

第3段階 表現につなげる

「ストーリー・スライド」を使って再話(Retelling)、要約などを行う。



前段階 単語をインプットする

知らない単語が多いと、推測しながら英文を読むことはできません。あらかじめ新出単語をインプットするために、単語リストを活用し、繰り返し学習する方法をご紹介します。

単語リスト「お助け90秒」の使い方

- あらかじめリストを生徒に配布し、毎回の授業の帯活動としてペアで交代しながら行います。
- 単語リストは、Unitごとに作成します。語数は、1年生が30~40語、2年生が40~50語、3年生が40~60語とします。新出語に加え、既習の重要語も入れておくことで定着を促すことができます。
- ペアの一人は、英語の部分を隠して、日本語を見ながら英語を言います。
90秒の制限時間の中で、言えないときはパスし、できるだけたくさん言きましょう。
- もう一人は、相手がきちんと言えているかどうか、自分の手元のリストを見ながらチェックします。

お助け90秒 Unit 4			
1	ホームステイ	homestay	26 10分
2	～の間(ずっと)	during	27 そんなに速く
3	～の一員	a member of ~	28 そんなに短い時間
4	客	guest	29 水を節約する
5	～しなければならない	have to ~	30 ~する必要がある
6	もし～なら、	if ~,	31 私はどうしたいでしょうか。
7	たずねる / 頼む	ask	32 料理が得意である
8	大切な	important	33 食べるのを楽しむ
9	～しなくてもよい	you don't have to ~	34 ひどく問題があります。
10	完璧な	perfect	35 食器に多くの食べ物を入れる
11	恥ずかしがるな。	Don't be shy.	36 私の皿に
12	何か～ありますか。	Are there any ~s?	37 ~したくない
13	～しなければならない	must not ~	38 傷つける
14	6時まで	by six	39 年配の夫婦
15	特別な予定	special plan	40 ~夫妻
16	夜遅くに	later in the evening	41 退屈する
17	～してはいけない	must not ~	42 私は何もすることがなかった。
18	一人で外出する	go out alone	43 (一緒に)～しませんか。
19	安全な	safe	44 ~のひとつ
20	あなたをそこへ連れて行く	take you there	45 趣味
21	あなたを助ける	pick you up	46 経験
22	場合	case	47 お互いに
23	使い終わる	finish using	48 ~しようとし続ける
24	浴室(トイレ)	bathroom	49 注意深く
25	～した方がよい	should	50 AもBも両方とも

(曜日)	(月)	(日付)	(書いた数)
1 Wednesday	September	eighteenth	24 / 50
2 Thursday	September	nineteenth	29 / 50
3 Friday	September	twentieth	38 / 50
4			/ 50
5			/ 50

ペアの相手が頑張って単語が言えたら、「Good!」「Well done!」「Wow!」などと言って、お互いに励まそう。

3段階読みの流れ

第3段階 表現につなげる

教科書本文を理解した生徒に対して、様々なアウトプット活動の場を与えます。新学習指導要領に示された今後求められる読みの力として、読んで内容を理解することに加えて、理解したことをもとに、自分の思いや考えを自分の言葉で表現することが挙げられます。

第一段階で使用した、「ストーリー・スライド」を用いて、生徒にとって取り組みやすい読後の表現活動を二つ紹介します。

1 再話(Retelling)

教科書の英文をそのまま用いるのではなく、自分の言葉でまとめて、本文の内容を説明する活動です。

第2段階のあとで、アウトプットにつなげるための音読練習(Read and Look-up, Shadowingなど)を行っておくとよいでしょう。

方法

- 1 第1段階で使用した「ストーリー・スライド」を紙で配布する。イラストや写真などを使って、ペアでそれぞれ再話する。[話す]
- 2 自分が選んだ「ストーリー・スライド」の紙のわきに、Story Writingを行う。[書く]

ポイント

- 本文とちがう表現になってもよいこと
- 順番が変わったり、省いたりしてもよいこと
- 何かを付け加えたりしてもよいこと

2 要約

第1・2段階の活動後、もう一度教科書を読み直し、自分の英語で要約します。

方法

- 1 本文中で、大切だと思う語や文に線を引く。最初と最後の段落や各段落の最初の文に着目することを伝える。
- 2 本文のUnit全体語彙数の4分の1程度で要約する。
- 3 第1段階で使用した「ストーリー・スライド」の中から、要約に必要なイラストや写真数枚を選び、Story Writingを行う。[書く]
- 4 選んだ「ストーリー・スライド」を用いて、3の原稿を見ずに話す。[話す・発表]

ポイント

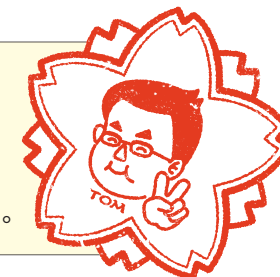
発表の際、その場の即興で、3で書いたものとは英文が変わってもよいことを伝えておく。

生徒の自主性を伸ばすには、「小さな成功体験」の積み重ねが大事です。

「3段階読み」の各段階で、生徒が「これならできる」「ここまでではできる」と

思える活動を取り入れましょう。

そして、自主主体的に学習に取り組める生徒の育成を目指していきましょう。



本冊子の裏付けとなる考え方や詳しい指導方法については、ホームページで詳しくご紹介しています。

また、p.2, 6で取り上げているワークシートなどのデータも掲載しています。

https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/ten_download/2020/2020064262.pdf

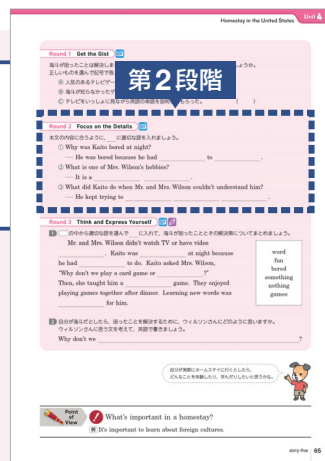


「QRコード」は株式会社アンソウウェブの登録商標です。

第2段階 詳細をおさえる

教科書本文を黙読して内容理解を深めるSpeed Reading(速読み)を紹介します。近年の高校入試には、教科書を上回る分量の英文が扱われているため、ある程度の速さで読み進める力が求められます。

- WPM (1分間で読む速さ)を意識する。
- 英文は、左から右へ、返り読みをしない。意味のかたまり(チャンク)で概要をとる。黙読終了後、閉本して内容理解を深める際には、どの生徒にも対応できる次の方法をとります。



1 口頭によるQ&A

全体

どの生徒でもわかるよう平易な英語で質問をします。まずスローラーナーを指名し、答えは1語や部分でもよいことにします。その後、文で答えられる生徒を指名し、完全文で答えさせます。



どの生徒にも「わかる」「できる」と思ってほしいので、全ての活動を習熟度別に取り組めるように工夫しています。

2 T or F問題

4人グループ

TかFかを選ぶだけなら、勘で答えているのと同じです。答えの根拠となる文を教科書から探し出し、書かせます。答え合わせは4人グループで、Classroom Englishを使いながら行います。

Speed Reading Unit 4 (4) ~ Homestay in the United States ~
WPM()語数 (118) +読んだ速さ() +60×正解数() +8

True or False 各文を読み、本文の内容と合っていればTに間違いであればFに○をしない。その際、なぜそう思うか根拠となる文を教科書から抜き出して、線に書きなさい。

- Mr. and Mrs. Wilson were young.
T or F _____
- At first, Kaito was bored at night because he couldn't play video games.
T or F _____
- One day, Mrs. Wilson taught Kaito a word game because he asked her to play a card game.
T or F _____
- Playing card games is one of her hobbies.
T or F _____

3 紙ベースのQ&A

個人

書かれた質問には、文で答える指導をします。スローラーナーには、選択肢から選ぶように言います。内容は理解できているのに、書けないだけということもあります。

Speed Reading Unit 4 (4) ~ Homestay in the United States ~
WPM()語数 (118) +読んだ速さ() +60×正解数() +8

- How old do you think Mr. and Mrs. Wilson are?
A: 25 B: 35 C: 45 D: 65
- Why was Kaito bored at night?
A: He had to go to bed early. B: He had to watch English movies.
C: He had nothing to do. D: He listened to Mr. and Mrs. Wilson's story.
- One day, what did Mrs. Wilson teach Kaito?
A: She taught him a word game. B: She taught him an easy English story.
C: She taught him her favorite Japanese song. D: She taught him cooking.
- What did Kaito and his host family enjoy after dinner?
A: They enjoyed watching TV. B: They enjoyed drinking coffee.
C: They enjoyed making cookies. D: They enjoyed playing games.

4 クローズテスト

個人

教科書本文を要約したものを作成し、7~10語間隔で語を消去する、いわゆる空所補充問題です。選択肢を見ずに、自分で答えを書くことが理想ですが、下の選択肢から選ぶことも可能です。

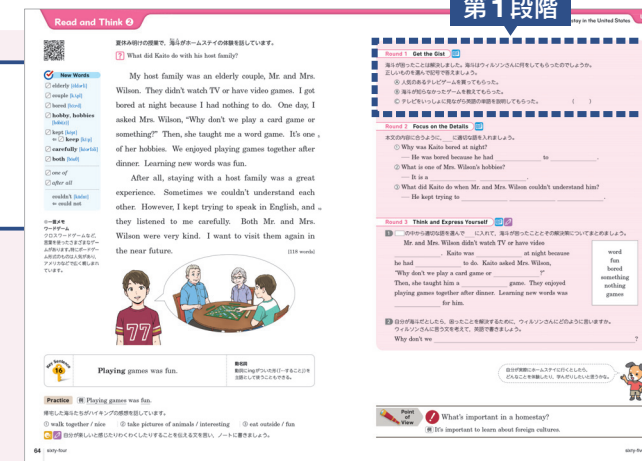
Speed Reading Unit 4 (4) ~ Homestay in the United States ~
WPM()語数 (118) +読んだ速さ() +60×正解数() +10

- Kaito's host family, Mr. and Mrs. Wilson was _____ couple.
A: a Japanese B: a young C: an elderly D: an exciting
- After dinner, Mr. and Mrs. Wilson doesn't _____.
A: play word games B: play video games C: watch TV D: both B and C
- Kaito got _____ because he had nothing to do at night.
A: hungry B: tired C: busy D: bored
- One day Kaito asked Mrs. Wilson to play _____.
A: tennis B: a card game C: video games D: a rock, paper, scissors
- A word game is one of her _____.
A: friends B: countries C: hobbies D: books

第1段階 本文の概要をつかむ

生徒が英文を読む前に、スキーマ(背景の知識)を活性化します。スローラーナーにとっては、イラストや写真などが有効です。

ここでは、新しい教科書の2年生Unit 4 Read and Think②に沿って、授業での「ストーリー・スライド」の使い方を紹介します。



▲2年 Unit 4 Read and Think②

「ストーリー・スライド」を用いたOral Interactionの例

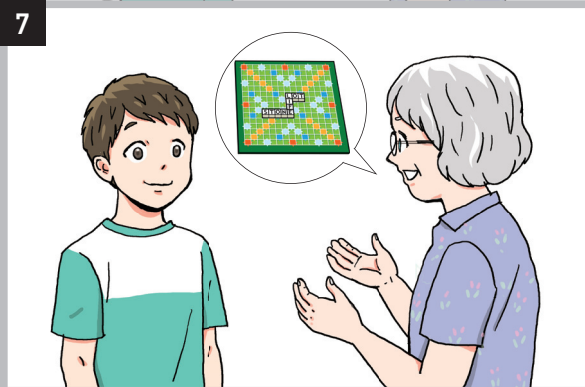
教師と生徒との予想されるやり取りは次のとおりです。

★はイラストを切り替えるタイミングです。

(T: a teacher/S: students)

- ★1
T: This is Kaito. He went to the U.S. to homestay during summer vacation.
- ★2
T: Kaito stayed at the Wilsons' house. How do they look? Do they look young or old?
S: They look old.
T: Yes, they are old. But we don't say they are an old couple. We call them an elderly couple. Do you know a famous elderly couple? Yes, Mr. and Mrs. Nomura was a famous elderly couple.
- ★3
T: Did Mr. and Mrs. Wilson like to watch TV or play video games?
S: No, they didn't.
T: Why do you think so?
S: I think they didn't know how to play them.
T: They didn't watch TV or have video games.

- ★4
T: Did Kaito watch TV a lot in Japan? How did you know that? Did he play video games?
Yes, he liked to watch TV and enjoyed playing video games, too.



★ 5

T: Did Kaito enjoy watching TV and playing video games in the U.S.?

S: No.

T: No, how did you know?

Look at this picture. How did he look at night? Did he look hungry? Or Happy?

He looked bored. Why?

S: He had nothing to do.

T: Yes, that's right. He had nothing to do. Did he go to bed after dinner?

S: No.

★ 6

T: One day, he asked Mrs. Wilson, "Why don't we play a card game or something?" Why did he ask Mrs. Wilson to play a card game? Not Mr. Wilson?

S1: She is kind to him.

S2: I think Kaito thought Mrs. Wilson liked to play card games because he saw that she was playing card games with her friends.

T: I see. Good guess!

★ 7

T: Actually, she loved to play games. What kind of games did she like? She liked to play word games. Then, she taught him a word game.

★ 8

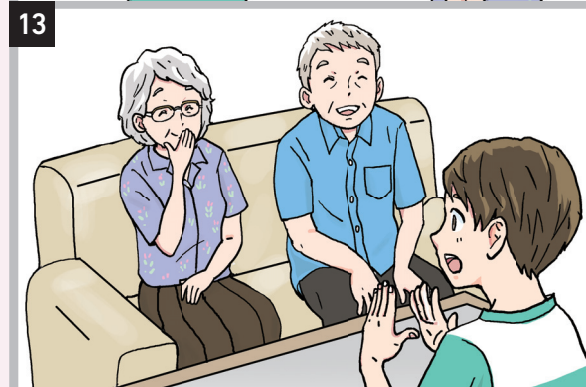
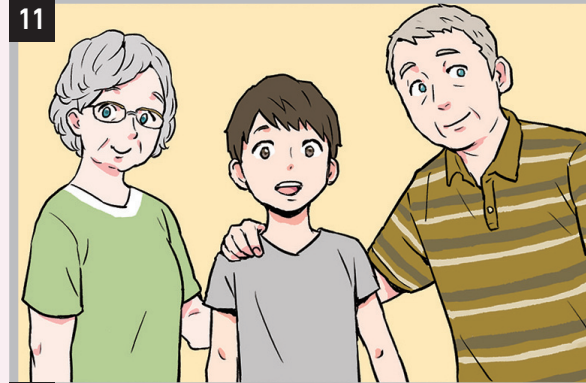
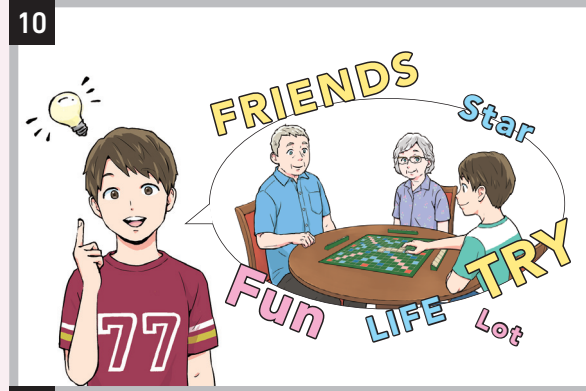
T: Does Kaito enjoy playing word games with Mr. Wilson?

S: Yes?

T: Yes, Mr. Wilson also played games with them. What did he like about the word games?

★ 9

T: How did Kaito's homestay life change? He had a great time with Mr. and Mrs. Wilson. After the games, they talked a lot.



★ 10

T: He also enjoyed learning new English words. He said, "Learning new words was fun."

★ 11

T: Did Kaito have a good experience with his host family?

S: Yes, he did.

T: After all, staying with a host family was a great experience.

★ 12

T: At first, was homestay easy or difficult for him?

S: It was difficult at first.

T: Why? Sometimes they could not communicate well each other. Kaito could not speak English well. His host family also didn't understand Kaito. What did Kaito do?

S: I think Kaito spoke English every day.

T: He did not give up speaking English. Mr. and Mrs. Wilson also listened carefully to Kaito and tried to understand him.

★ 13

T: Were they kind to Kaito?

S: Yes.

T: Yes, Mr. and Mrs. Wilson were very kind.

★ 14

T: Did Kaito enjoy staying with his homestay family?

S: Yes.

T: Does he want to visit them again?

S: Yes.

T: He wants to visit them again. When did Kaito want to visit them? Next year? Ten years after? Twenty years after? In the near future.